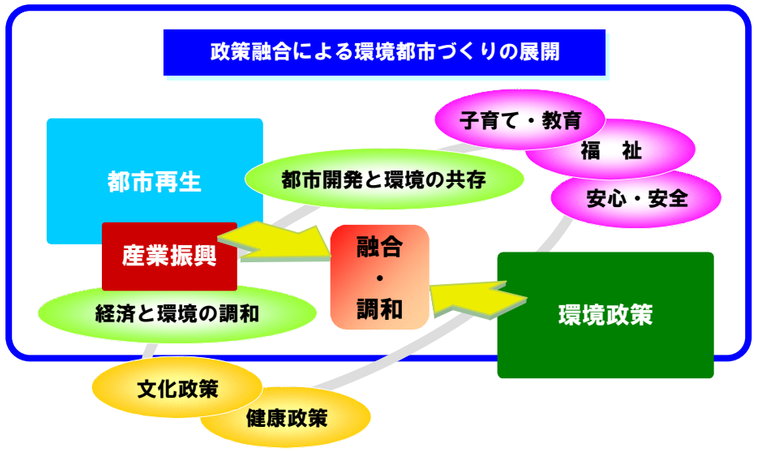
=副都心線開通に向けて= 池袋副都心・グランドビジョン 2008

6月14日の「副都心線」開業により、都市間競争は新たなステージを迎えようとしています。

サンシャインシティの誕生から30年、池袋副都心はいま、これまでの文化政策に加え「**人と環境への優しさ**」をコンセプトとして新たな"グランドビジョン"を描き、**地域と行政が目標を共有しながら** 東京において個性を発揮する都市づくりを進めていきます。

コンパクトに集積した街の姿、暮らしが息づく副都心、個性ある大学や劇場の集積、そして地域の顔が見えるまちづくりこそが、池袋の強みであり、都心部や新宿、渋谷には真似のできない、池袋らしさであると考えるからです。



グランドビジョン推進懇談会の設置

地域、大学、事業者、行政による継続的な話し合いのテーブル

① 東京初のLRT整備と歩行者優先ゾーンの創出

② 清掃工場排熱利用システムの構築

③ 地域冷暖房導管ネットワークの拡大

④ 都市型生ごみ発電施設の整備

⑤ クールシティ中枢街区パイロット事業

⑥ 都市再生緊急整備地域の指定

⑦ 環状５の１号線地下通過道路の整備

⑧ 池袋駅・駅周辺の整備、東西デッキ広場の整備

⑨ 西口駅前まちづくり（広場改修、Echika 計画）

⑩ 補助 172、173 号線の整備

⑪ 東池袋まちづくり（サンシャイン、造幣局周辺）

⑫ 東池袋四丁目市街地再開発 （第二地区）

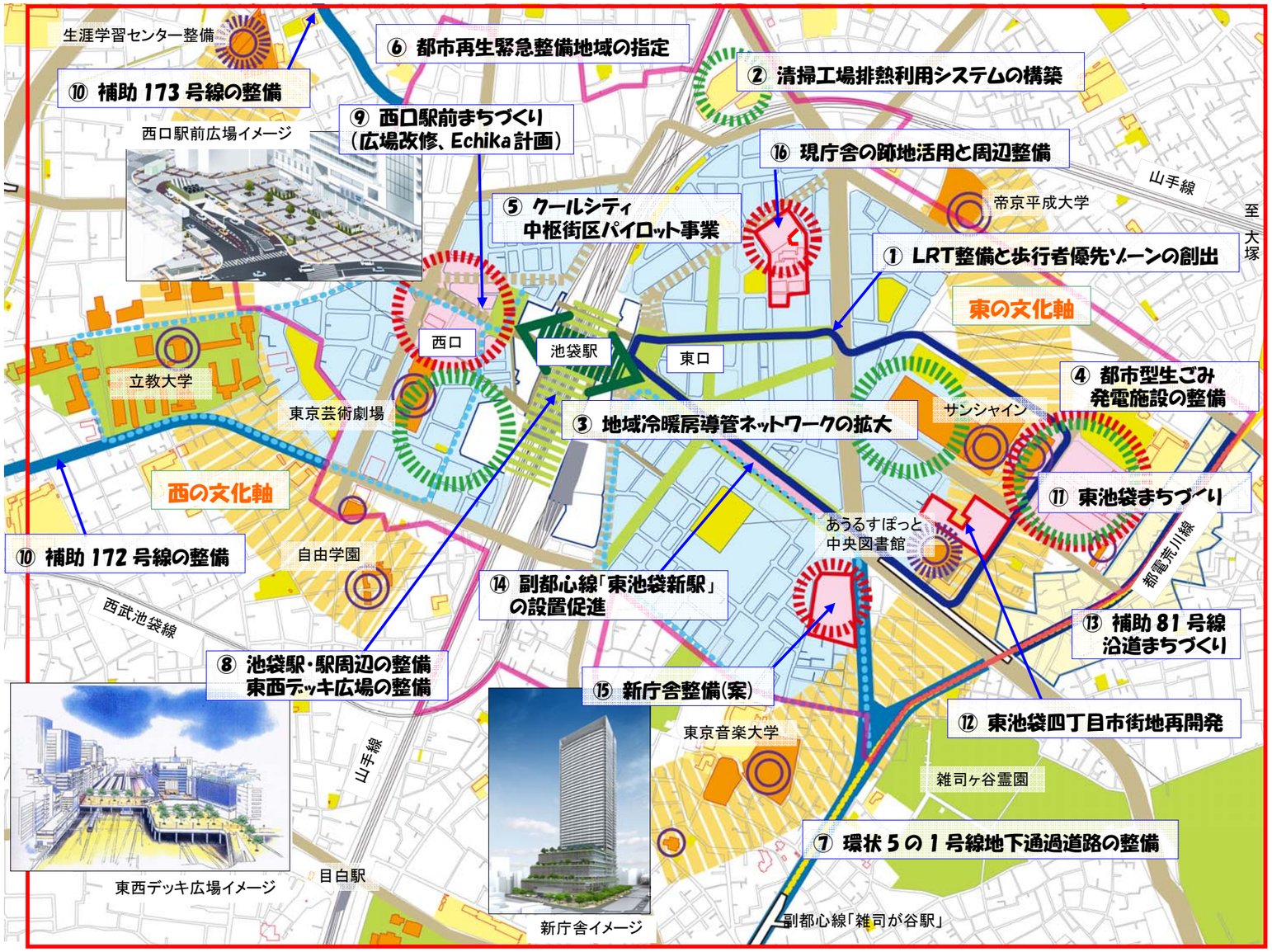
⑬ 補助 81 号線沿道まちづくり

⑭ 副都心線「東池袋新駅」の設置促進

⑮ 新庁舎整備 （南池袋二丁目地区案）

⑯ 現庁舎の跡地活用と周辺整備

グランドビジョンを構成する池袋副都心のリーディングプロジェクト



1 東京初のLRT導入とパーク・アンド・ライドによる歩行者優先ゾーンの創出

埼玉方面から池袋、新宿、渋谷を経由し、4年後には横浜方面までを結ぶ大動脈となる副都心線の開業を契機として、都市間競争が新たなステージを迎えようとする今、池袋副都心は、「人と環境への優しさ」をコンセプトとして低炭素社会の実現に挑戦することで都市再生を進めていきます。

都心部や臨海部、新宿、渋谷等の大規模開発や地下街など、量的な開発等を追うという発想ではなく、人が住む副都心、駅を中心とした比較的コンパクトな姿、至近に立地する大学や個性ある劇場の集積など、自らの強みと可能性を伸ばすことで、東京のなかで個性を発揮していきます。

こうした目標に向けて、まず、商業・業務・文化機能が高度に集中する池袋副都心において、物流にも配慮しながら、車両等の流入を抑制して歩行者優先の空間を生み出すことで、ヒートアイランド対策を含めた環境対策に取り組みます。

≪低炭素・高満足を実現する歩行者優先のまち・池袋！≫

- ◆ 環状5ノ1号線の地下通過道路整備により、膨大な通過交通を駅前から排除
- ◆ 駅周辺には歩行者優先ゾーンを設定、トランジットモール等の整備
- ◆ 次世代型の地上部水平移動システムとして、副都心地域を回遊するLRTを整備
  - ⇒ **まず、「東口回遊線」を実現するとともに、構想路線として、さらに二路線を位置づけ**
  - ⇒ **「東口回遊線」は、一周約２キロメートル、反時計回りの単線運行を想定**
  - ⇒ **将来的には、都電荒川線との連携により広域的な池袋へのアクセスを向上**
  - ⇒ **ＬＲＴは架線不要にタイプを採用、電力は生ごみ発電による地域内調達を実現**
- ◆ 結節性の高いパーク・アンド・ライドの実施（東池袋地区）
  - ⇒ **東池袋まちづくりの開発における大規模駐車施設、共同集配ターミナルの整備**
  - ⇒ **首都高速道路５号線の東池袋ランプからの直接乗入れも視野に入れた整備**
- ◆ 駅直近の百貨店や量販店等と協力し、ICTを活用した共同集配・物流システムを構築
  - ⇒ **地区内の商業事業者が出資する共同輸送の株式会社を設立**
  - ⇒ **パーク・アンド・ライドとの連携により、荷物を持たずに買物ができるまち**
- ◆ 駅周辺の慢性的な交通渋滞、買物・駐車場待ち車両、集配車両等による環境損失の低減
- ◆ 車の流入を抑制することでヒートアイランド対策としての効果も実現

一日乗降客数 264万人の 巨大ターミナル において **LRTの整備 パーク・アンド・ライド 共同集配システム** により **歩行者空間の拡大 人と環境に優しい にぎわい空間** を実現し **交通渋滞の解消 買物・駐車待ち車両抑制 ⇒ヒートアイランド対策 ⇒CO2の削減**

「人と環境への優しさ」をコンセプトとして都市再生を進め、東京における池袋の個性を発揮

2 高密都市から発信する低炭素社会実現への挑戦（環境モデル都市への提案概要）

地域循環エネルギー基盤の整備

■ 豊島清掃工場排熱利用システムの構築（上池袋・東池袋地区）

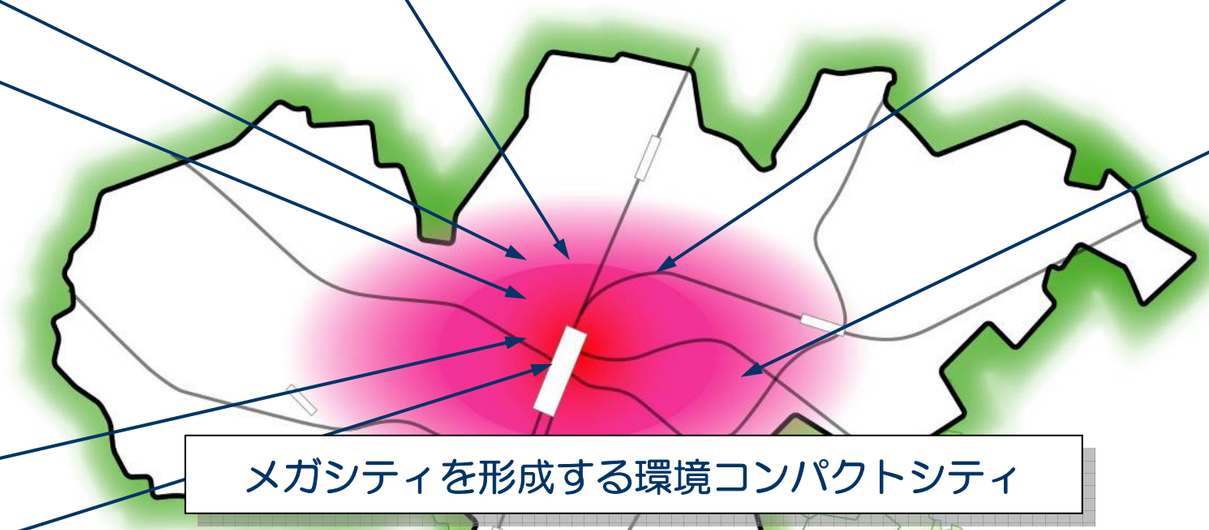
■ 都市型生ごみ発電施設の整備（東池袋地区）

■ 省CO_2都市開発を促す地域冷暖房導管ネットワークの拡大（東池袋・西池袋地区）

１９５０年の街から２０５０年の街へ

■ 中小ビルの共同熱源化（区内ＪＲ駅周辺地区）

■ 木造密集地域の環境タウン化（南池袋二丁目地区・東池袋四丁目地区）



メガシティを形成する環境コンパクトシティ

■ 低炭素・高満足を実現する歩行者優先のまち・池袋

「SWIMO」（川崎重工）

■ 人と環境に優しいターミナルへの変革をリードする池袋駅の再生

東西連絡デッキ(イメージ)

※池袋副都心再生プラン（平成 16 年 4 月豊島区)より

■ 国内 CDM を活用した中小企業対策（区内全域）

■ 地域をまるごとカバーする家庭部門対策（区内全域）

環境が価値を生み出す地域システム

世界をリードする魅力と活力あるメガシティ東京

東京初の LRT 導入とﾊﾟｰｸ･ｱﾝﾄﾞ･ﾗｲﾄﾞによる歩行者優先ｿﾞｰﾝの創出

3　都市更新期を捉えた未利用エネルギーの活用

清掃工場排熱利用システムの構築

- 池袋駅から約７００ｍに立地する豊島清掃工場の排熱を既存の地域冷暖房システムを活用しながら利用

↓

- 新庁舎整備による現区庁舎地の活用において、排熱活用のためのサブプラントを設置

↓

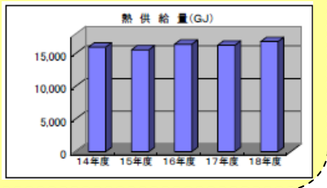
- サブプラントと豊島清掃工場を結ぶ、導管（導洞）を敷設

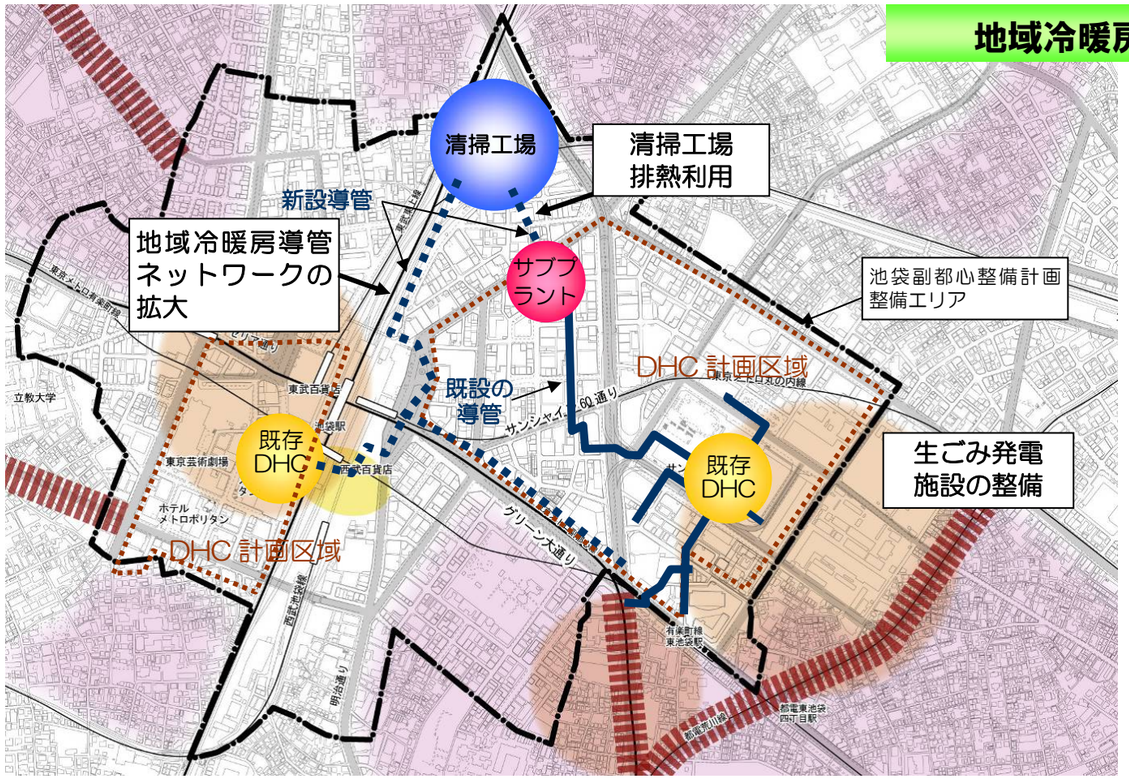
↓

- カーボンニュートラルとされるごみ焼却熱を都市全体で活用することを可能することで大幅なCO_2削減を実現

【清掃工場概要】　可燃ごみを対象
処理能力：400ｔ／日・炉
（200t／日・炉×2）
焼却炉形式：全連続燃焼式流動床焼却炉
発電能力：7800 kW
工場に隣接して「健康プラザとしま」（スポーツセンター等により構成）を設置

H18 年度の健康プラザとしまへの熱供給量は１年間に約16,800 GJ





木造住宅密集地域（東京都防災都市づくり推進計画より）　道路整備に併せた沿道整備　0　100　200　500m

地域冷暖房導管ネットワークの拡大

◆池袋駅周辺地区における数多くの大規模開発計画

↓

◆エネルギー需要の大幅な増大

↓

◆CO_2削減の面から、一定規模以上の建築物の熱源として最適な地域冷暖房の利用拡大の必要性

↓

◆清掃工場の未利用エネルギー活用と地域冷暖房との連動

↓

◆都市更新期を捉えた低炭素化を進めるため、大規模開発に対応できる地域冷暖房導管ネットワークを積極的に拡大

◆地域冷暖房への加入義務を盛り込んだ条例の制定も検討

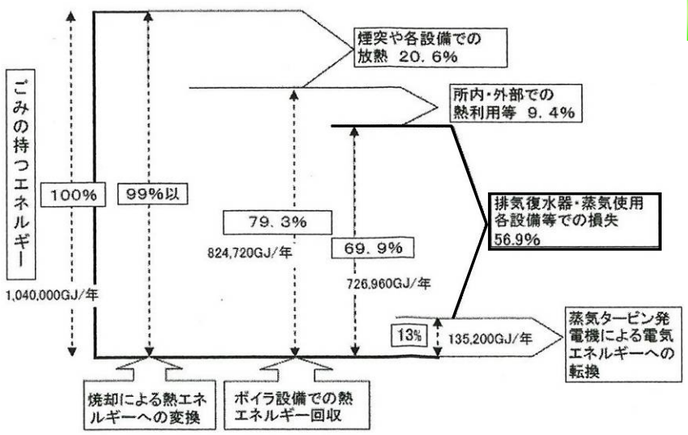
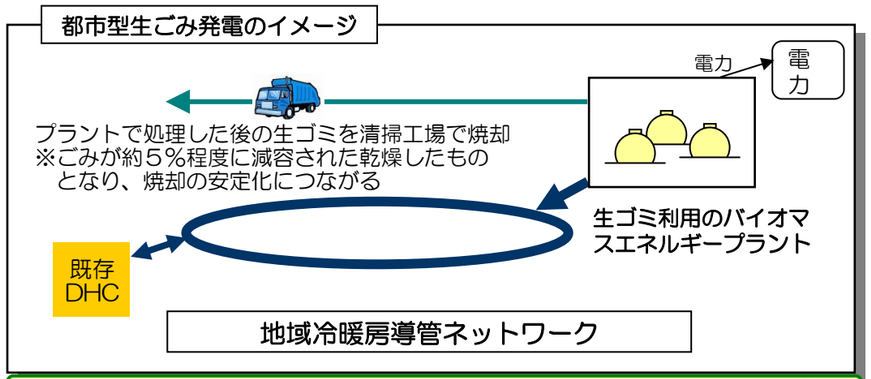


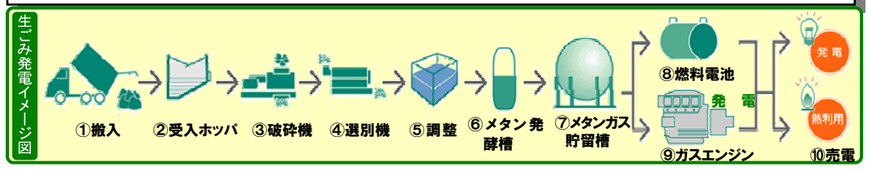
図　豊島清掃工場での排熱利用イメージ

都市型生ごみ発電施設の整備

- 現在は焼却されている生ごみを、メタン発酵技術を活用したバイオマス発電施設を設置して、電力、熱として活用する。
- 施設は、開発が計画されている大規模用地の地下部へ設置する。
- 発生した電気は施設の稼動用として使用するとともに売電し、クリーン電力の拡大に寄与する。また、発生した熱は施設内での利用のほか、地域冷暖房システムを介して、都市全体で活用する。
- このことにより、大幅なCO_2削減をはかるとともに、清掃工場の焼却効率を安定、向上させ、ごみ資源のカスケード利用と高い次元でのエネルギーの有効活用を実現する。

都市型生ごみ発電のイメージ





4 「都市再生緊急整備地域」申出区域内における都市再生プロジェクト

5 池袋駅西口駅前広場の整備（イメージ）

(※平成 21 年度完了予定)

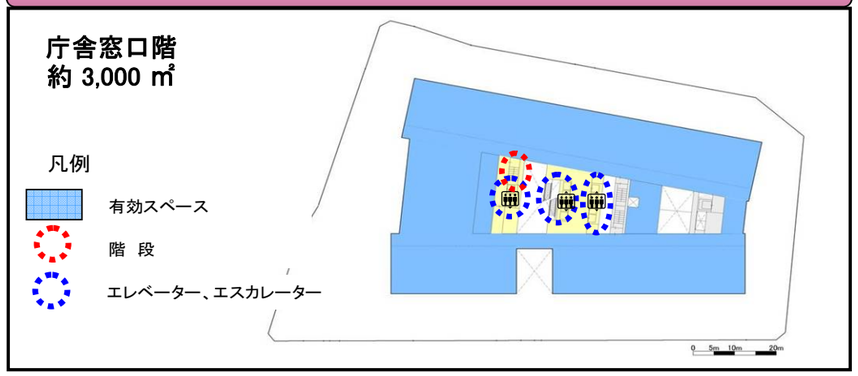
6 新庁舎整備構想

新庁舎のイメージ

市街地再開発事業による新庁舎整備（案）

- 新庁舎候補地の位置
  南池袋二丁目45･46街区
  （現在の庁舎　東池袋1-18-1から移転）
- 竣工予定
  事業が順調に進んだ場合最短で、平成26年末
- 規模
  床面積　約 28,500 ㎡
- 資金計画
  旧日出小学校と旧南池袋児童館の土地・建物の権利を新しい建物の床に変換し、不足する分の床は現庁舎地を活用し、購入経費を手当てする。

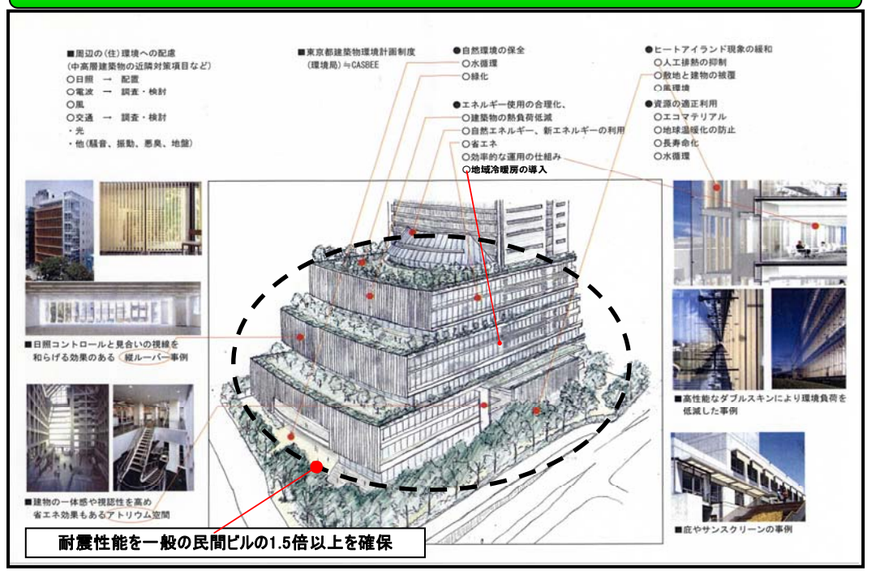
区民サービスの向上



窓口サービスを充実し、便利でわかりやすい庁舎を実現します。

庁舎低層部の広いスペースにＩＴを効果的に活用しながら、**窓口の総合化**と**相談機能の充実**を図ります.

防災拠点機能の強化／環境保全･自然エネルギーの利用



災害時に強く環境にやさしい１００年庁舎を実現します。

庁舎の十分な耐震性能を確保し、災害対策本部機能が維持できるよう、設備面での十分な対策を行い、防災拠点機能の強化を図ります。
　また、将来のリニューアルが容易な１００年建築の実現と太陽光や太陽熱利用など自然エネルギーの利用により、環境面で最大限配慮した施設を目指します。

副都心再生

区有地の民間活用によって来街者の回遊性を高めます。

旧日出小地区への庁舎移転を契機に、民間活用する現庁舎地区と旧日出小地区への歩行者通行量の増加を図り、副都心再生に向けた新たな核を形成します。